

平成28年度アジア情報関係機関懇談会

(平成29年2月7日 国立国会図書館関西館)

アジア歴史資料センターにおける「アジア歴史資料」のデジタル公開と海外に向けた情報発信

Digital Publishing of 'Asian Historical Records' and overseas information activities
at the Japan Center for Asian Historical Records

国立公文書館 アジア歴史資料センター

研究員 平野 宗明

Japan Center for Asian Historical Records (JACAR), National Archives of Japan

Researcher, **Muneaki Hirano**



1 はじめに

国立公文書館アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records, National Archives of Japan



近現代における日本とアジア近隣諸国等との関係に関わる日本の歴史的な公文書等のデータベースを構築し、インターネットを通じて公開するデジタル・アーカイブ機関。設立は2001年11月30日。

アジア歴史資料センターウェブサイト（日本語版）

URL:<http://www.jacar.go.jp/>

2 センター設立の経緯と目的

1994年8月 「平和友好交流計画」に関する村山内閣総理大臣の談話

- ①過去の歴史を直視するための歴史図書・資料の収集、研究者に対する支援等を行う歴史研究支援事業
 - ②知的交流や青少年交流などを通じて各界各層における対話と相互理解を促進する交流事業
- + アジア歴史資料センターの設立を検討

1995年6月 有識者会議による提言

- ・「日本とアジア近隣諸国等との間の近現代史に関する資料及び資料情報を、幅広く、偏りなく収集し、これを内外の研究者をはじめ広く一般に提供することを基本的な目的とする施設」として運営
- ・「史料（公文書及び手記・日記等の私文書）、文献・図書、写真、映画・ビデオ、オーラルヒストリー、裁判関係資料等」を収集・公開する



最終的には、日本の政府機関が所蔵する公文書のデジタル・アーカイブとしてのアジア歴史資料センター設立構想へ

2 センター設立の経緯と目的

1999年11月30日 閣議決定「アジア歴史資料整備事業の推進について」

- 2001年11月30日にセンター設立
- センターの事業目的

我が国とアジア近隣諸国等との間の歴史に関し、国が保管する資料について国民一般及び関係諸国民の利用を容易にし、併せて、これら諸国との相互理解の促進に資すること

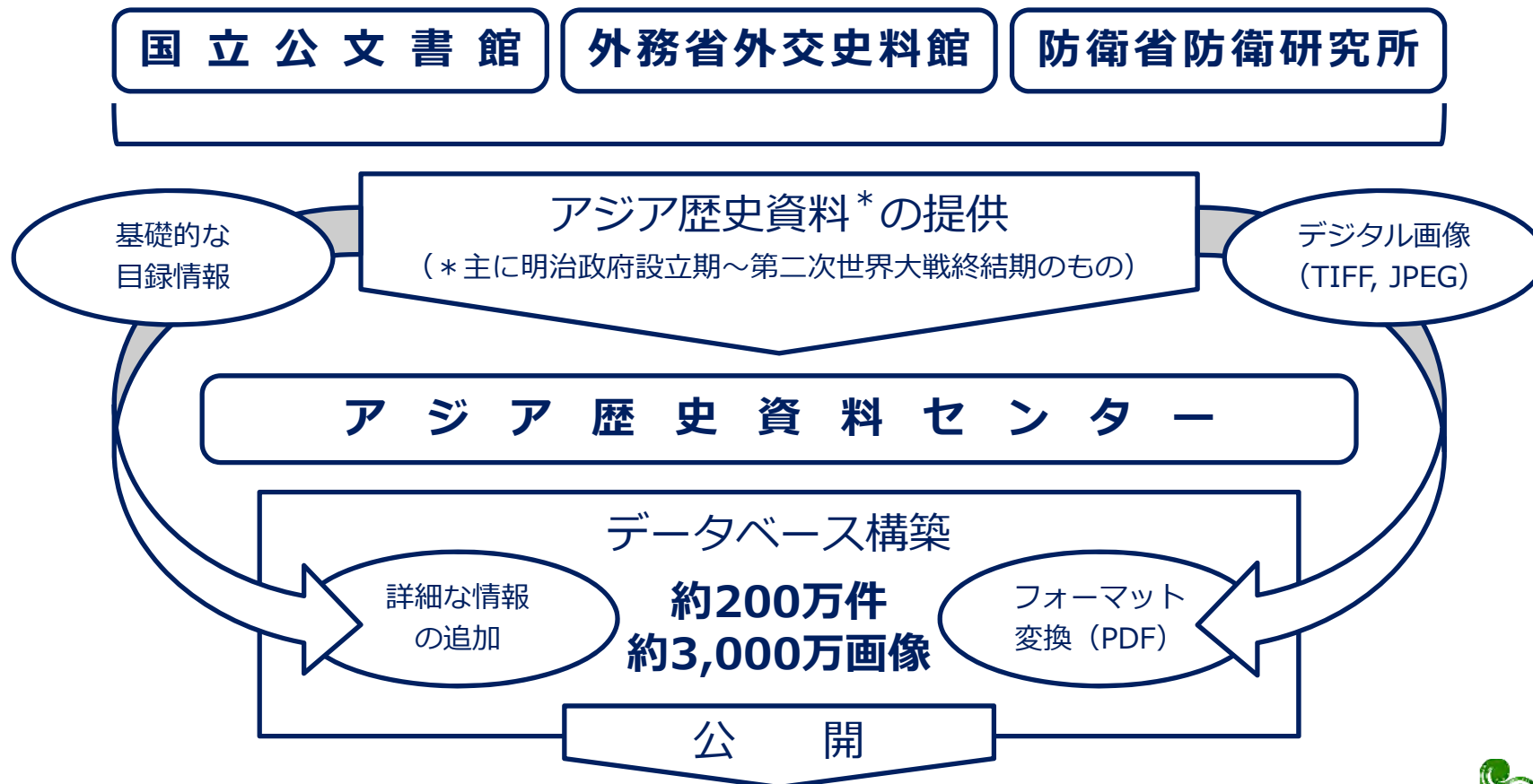
- 「アジア歴史資料」の定義

近現代における我が国とアジア近隣諸国等との関係に関わる歴史資料として重要な我が国の公文書その他の記録

3 資料公開の現状と展望

(1) データベース構築と資料検索・閲覧システム

① データベース構築の概要



3 資料公開の現状と展望

(1) データベース構築と資料検索・閲覧システム

② 資料検索・閲覧システム



キーワード検索画面

● システムの特徴

3つの機関（国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所）の資料の情報を、共通の方式によって1つのデータベースに収めていることにより、それらを一括して検索・閲覧することが出来る



3 資料公開の現状と展望

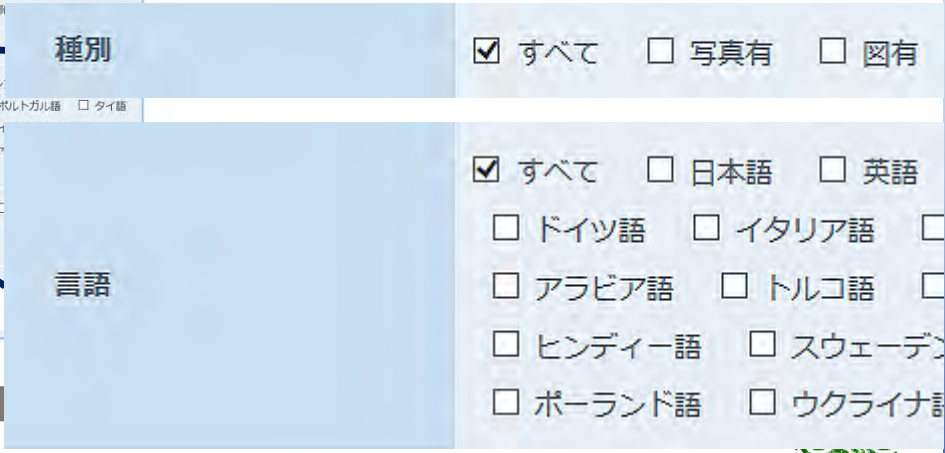
(1) データベース構築と資料検索・閲覧システム

② 資料検索・閲覧システム



キーワード詳細検索画面

- ユーザーインターフェイス
キーワード検索、キーワード詳細検索等のオードックスなもの
近年はより実用的な検索条件の指定を可能に



3 資料公開の現状と展望

(2) 3つの機関からの提供資料

① 国立公文書館からの提供資料

御署名原本

憲法・詔書・法律・条約・勅令などの公布に際し、御名（天皇の署名）および御璽（天皇の印）が付された文書

公文類聚

法律・規則の制定に関する原議書などを編纂したもの

単行書

地方官会議・参事院・元老院関係の文書などを含む

返還文書

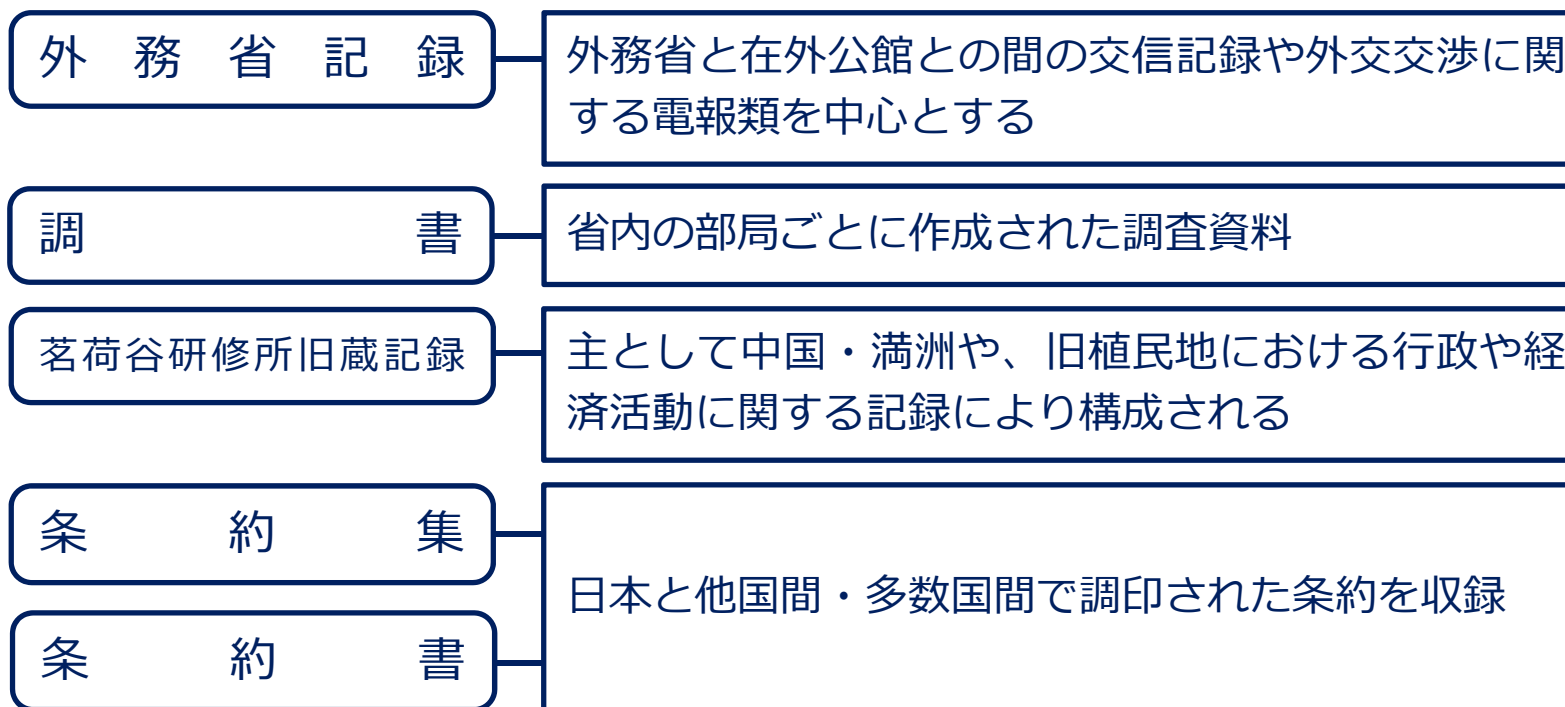
第二次世界大戦後に連合国に接収された後に返還されたもの

etc. (他省庁から移管された文書等)

3 資料公開の現状と展望

(2) 3つの機関からの提供資料

② 外務省外交史料館からの提供資料



etc.

3 資料公開の現状と展望

(2) 3つの機関からの提供資料

③防衛省防衛研究所からの提供資料

陸軍省大日記

旧陸軍省によって保管されていた公文書類を集めたもの

海軍省公文備考

旧海軍省によって保管されていた公文書類を集めたもの

陸軍一般史料


海軍一般史料

参謀本部が作成した統帥・作戦関係文書や陸海軍省が作成した軍事行政に関する文書、陸海軍各部隊の戦闘記録などを中心に構成される

3 資料公開の現状と展望

(3) 今後の資料公開の展望

- これまで第二次世界大戦終結期までの資料を対象に
- 利用者からは戦後期の資料の公開を望む声も多く寄せられる
- 3機関所蔵の終戦期に至る「アジア歴史資料」の公開はほぼ完了
- 「20世紀を振り返り21世紀の世界秩序と日本の役割を構想するための有識者懇談会」の戦後期資料の公開を目指すべきとの趣旨の報告書



第二次世界大戦後の、日本と近隣の国々との間の和解のプロセスが進む時期に至るまでの資料を一貫して利用できるようなデータベースを提供することの意義



歴史を振り返り、アジア近隣諸国との相互理解の促進に寄与する

3 資料公開の現状と展望

(3) 今後の資料公開の展望

国立公文書館

候補：経済企画庁、通商産業省、厚生省等の文書

※これまでに一部戦後期資料の提供：「公文類聚」「公文雑纂」の戦後期分、「御署名原本」（～1946年の新憲法（日本国憲法）公布）、「戦争犯罪裁判関係資料」の一部である極東軍事裁判の記録・速記録、占領軍が日本政府に提出した調達要求書綴等から成る「調達要求書」など

外務省外交史料館

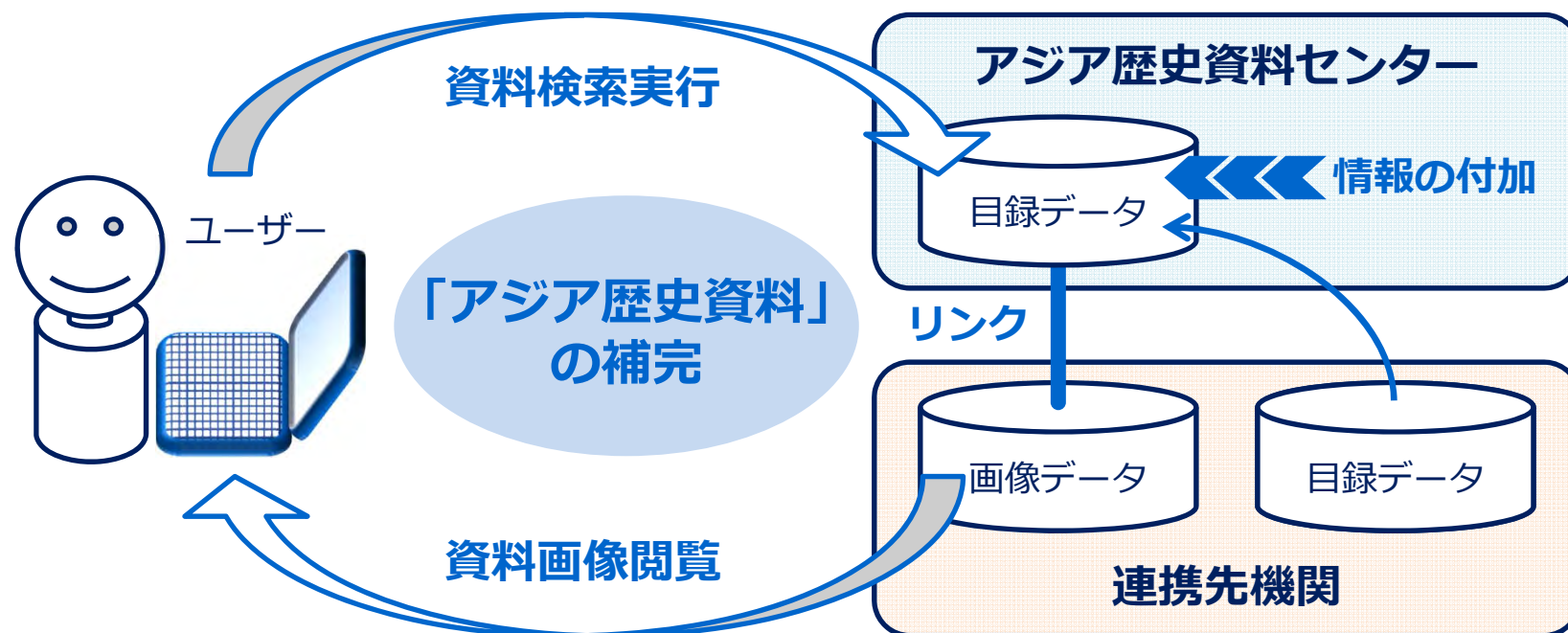
候補：「外務省記録」の戦後期分

防衛省防衛研究所

※これまでに終戦処理関係等の資料提供済み
※所蔵資料の多くは基本的に終戦期までのもの（それ以降の防衛庁などに関する文書は、国立公文書館に移管）

3 資料公開の現状と展望

(4) 他機関とのリンクによる資料情報提供



- 2013.05 : 琉球大学附属図書館「宮良殿内文庫」開始
- 2015.03 : 琉球大学附属図書館「矢内原忠雄文庫植民地関係資料」開始
- 2017.01 : 滋賀大学経済経営研究所「旧植民地関係資料」開始
- 2017.02 : 北海道立図書館「北越殖民主関係資料」開始

4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

① ホームページ (主要部分は4カ国語により提供)



4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

②ウェブコンテンツ（一部につき英語版も公開）



インターネット特別展
「日露戦争特別展 公文書に見る日露戦争」
(平成16年2月公開)

英語版（完全英訳）
The Russo-Japanese War :
as seen in official documents
(平成19年5月公開)



4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

②ウェブコンテンツ（一部につき英語版も公開）



インターネット特別展

「公文書に見る日米交渉 開戦への経緯」

(平成17年12月公開)



英語版（一部コンテンツ省略）

The US-Japan War Talks : as seen in official documents

(平成19年5月公開)



4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

② ウェブコンテンツ (一部につき英語版も公開)



大英図書館との共同インターネット特別展
「描かれた日清戦争 錦絵・年画と公文書」

(平成26年5月公開)

英語版 (日英版同時公開、完全英訳)

The Sino-Japanese War of 1894-1895
: as seen in prints and archives

(平成26年5月公開)



4 海外に向けた情報発信

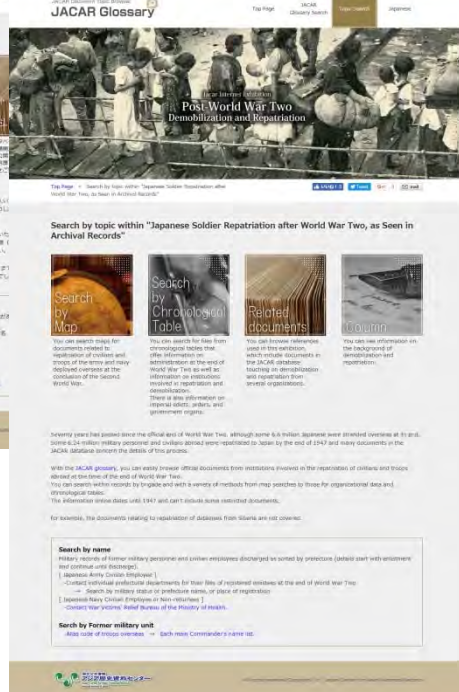
(1) サービスの多言語化

②ウェブコンテンツ（一部につき英語版も公開）



インターネット特別展
「公文書に見る終戦 復員・引揚の記録」

(平成27年8月公開)



英語版（一部未英訳）

Post-World War Two : Demobilization and Repatriation

(平成28年2月公開)



4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

②ウェブコンテンツ（一部につき英語版も公開）



インターネット特別展

「公文書に見る戦時と戦後 統治機構の変転」

(平成28年12月公開)

英語版（日英版同時公開、一部未英訳）

Japan's Wartime and Postwar Periods Recorded : Transformation of Japan's Governance Structure

(平成28年12月公開)



4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

③ 資料検索・閲覧システム

The screenshot shows the search interface of the Japan Center for Asian Historical Records. The header includes the logo and navigation links: Legend, About Usage of Document Images, Search Guide, Browse Guide, Size (Standard, Large), Japanese, and English. The main navigation bar lists Search by Keyword, Alphabetical Index Search, Advanced Search, Search by Reference Code, and Cross Search. The left sidebar contains a 'help' section and a list of institutions: National Archives of Japan, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs, The National Institute for Defense Studies, Ministry of Defense, and University of the Ryukyus Library. The main content area is titled 'Search by Keyword' and includes a search box with the placeholder 'Please enter keyword(s) for search', a 'Search' button, and a 'Reset' button. Below the search box, it indicates 'Display 20 matches per page'. A section titled 'How to enter keywords' provides instructions on using AND, OR, NOT, and exact match operators with examples.

- 資料検索・閲覧のインターフェイスは英語でも提供
英語の目録情報は日本語のものよりも項目が少ない（当時の専門用語等をすべて英訳することが非常に困難であることなどから）
資料検索の精度において、日本語版と英語版との間に差異

4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

③資料検索・閲覧システム

2002年6月より、目録情報の英語版の公開を開始（＝英語による資料検索機能提供開始）

- ・これに先行して、①基本的な用語を集約しこれを英訳したリストの作成、②①で補えない部分についての専門家による検証、を実施

2003年より、専門家による委員会「データ検証委員会」を常設

- ・常時6名～7名の委員によって構成、各委員の専門分野は、国際政治史、政治外交史、思想史、軍事史、等
- ・「センターが公開するデータベースの正確性、客観性、及び信頼性の維持に資する」ことを目的として、英訳のみならず、例えばシソーラスの整備等、アジア歴のデータベース構築に係る作業の全体に対して検証審議することを旨とする（2004年6月16日センター長決定「アジア歴史資料センターデータ検証委員会規程」）。

4 海外に向けた情報発信

(1) サービスの多言語化

③資料検索・閲覧システム

現在、「データ検証委員会」の主要な機能は英訳の検証

- ・新規公開資料のタイトル、作成者等の基本情報部分に含まれる、主に組織名、役職名、事件名等の用語につき、専門的見地から英訳を検討
- ・これをアジ歴の定訳（以降の新規公開資料の情報についての英訳にも反映させる）として蓄積してきている（現在約17,000語）



英訳においては、原意に出来るだけ近い訳語を選択する必要があるが、完全に原意と同じ訳語が常に存在するわけではないので、一定のニュアンスの相違は不可避であることに留意した上で、以下につき配慮

- ①学術的な裏付けのある（専門性の高い）訳語を選択する
- ②実際に英語を使用するユーザーが馴染みやすい訳語を選択する

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

① 国際学会・会議等での広報活動

AAS (北米アジア学会)

開催地域：アメリカ、カナダ
参加者：研究者（世界各地から）

AAS-in-ASIA (AASアジア大会)

開催地域：東／東南アジア各国
参加者：研究者（世界各地から）

EAJRS (日本資料専門家欧州協会)

開催地域：ヨーロッパ各国
参加者：研究者、司書（欧州・北米から）

ICA (国際公文書館会議)

開催地域：世界各国
参加者：世界各国の公文書館関係者

EASTICA (ICA東アジア地域支部)

開催地域：東アジア各国
参加者：東アジア各国の公文書館関係者

etc.

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

① 国際学会・会議等での広報活動

プレゼンテーション・講演

- ・場の性質や参加者に対応
- ・事業の全体的説明から専門性の高い内容までさまざま

ブース出展

- ・新規ユーザーの開拓
- ・先方の関心に応じた説明
- ・先方からのコンタクトの窓口
(名刺交換)

デモ・ワークショップ

- ・利用者及びその予備軍に対する利活用促進
- ・検索の実演を通じた具体的な利用方法の説明

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

① 国際学会・会議等での広報活動

年	月	都市名	会議名等及び活動内容
2014	03	ボストン	AAS総会でのブース出展
	05	ソウル	国民大学校日本学研究所でのセンター長講演、プレゼンテーション
	05	ソウル	ソウル大学校日本研究所でのセンター長講演、プレゼンテーション
	07	シンガポール	AAS-in-ASIA総会でのブース出展
	09	ルーヴェン	EAJRS総会でのプレゼンテーション、ワークショップ、ブース出展



EAJRSでのプレゼンテーション



EAJRSでのワークショップ

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

① 国際学会・会議等での広報活動

年	月	都市名	会議名等及び活動内容
2015	03	イスタンブール	トルコ首相府国家アーカイブ総局主催の国際フォーラムでの講演
	03	シカゴ	AAS総会でのブース出展
	05	常德	湖南文理学院主催学術シンポジウムでのプレゼンテーション
	05	ソウル	国立外交院外交安保研究所でのセンター長講演、プレゼンテーション
	05	大邱	啓明大学国際学大学でのセンター長講演、プレゼンテーション
	06	台北	AAS-in-ASIA総会でのブース出展
	09	ライデン	EAJRS総会でのプレゼンテーション、ワークショップ、ブース出展

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

① 国際学会・会議等での広報活動

年	月	都市名	会議名等及び活動内容
2016	03	シアトル	AAS総会でのブース出展
	06	京都	AAS-in-ASIA総会でのブース出展
	09	ソウル	ICA大会でのセンター長講演
	09	ブカレスト	EAJRS総会でのプレゼンテーション、ワークショップ、ブース出展



AASでのブース出展



ICAでのセンター長講演

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

② 関連機関訪問

年	月	国名・地域名	訪問先機関名及び活動内容
2014	03	アメリカ	ボストン公文書館（ボストン）での意見交換・所蔵資料調査／ハーバード大学図書館イメージングサービス（ケンブリッジ）での施設見学・意見交換／ハーバード・燕京図書館（ケンブリッジ）での意見交換・所蔵資料調査
	06	韓国	日中韓三国協力事務局（ソウル）での意見交換／東北アジア歴史財団（ソウル）での意見交換
	07	シンガポール	シンガポール国立大学中文図書館での意見交換・所蔵資料調査／南洋理工大学Wang Gungwu ライブラリーでの意見交換・所蔵資料調査／シンガポール国立公文書館での意見交換・所蔵資料調査／シンガポール国立図書館での意見交換・所蔵資料調査
	09	イギリス	大英図書館（ロンドン）での意見交換・所蔵資料調査／ダックスフォード帝国戦争博物館での意見交換・所蔵資料調査（ダックスフォード）／ロンドン帝国戦争博物館での意見交換・所蔵資料調査（ロンドン）

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

② 関連機関訪問

年	月	国名・地域名	訪問先機関名及び活動内容
2015	03	シカゴ	シカゴ大学レーゲンスタイン図書館（シカゴ）での意見交換・所蔵資料調査 / ノースウェスタン大学アーカイブ（エバンストン）での意見交換・所蔵資料調査
	05	韓国	日中韓三国協力事務局（ソウル）での意見交換 / 外交部（外務省）外交史料館（ソウル）での意見交換・施設見学
	06	台湾	国家図書館（台北）での意見交換・所蔵資料調査・施設見学 / 国家発展委員会档案管理局（台北）での意見交換・所蔵資料調査・施設見学
	09	オランダ	オランダ戦争資料研究所（NIOD）（アムステルダム）での意見交換 / オランダ国立公文書館（デン・ハーグ）での意見交換 / ブロンベーク博物館（アーネム）での意見交換・施設見学
	09	イギリス	大英図書館（ロンドン）での意見交換・所蔵資料調査

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

② 関連機関訪問

年	月	国名・地域名	訪問先機関名及び活動内容
2016	03	アメリカ	ワシントン大学東アジア図書館（シアトル）での意見交換・所蔵資料調査 / 国立公文書館シアトル分館（シアトル）での意見交換・所蔵資料調査 / ボーイング歴史アーカイブス（ベルビュー）での意見交換・所蔵資料調査
	09	ルーマニア	ルーマニア国立公文書館（ブカレスト）での意見交換・所蔵資料調査
	09	ドイツ	ベルリン自由大学文献学図書館（ベルリン）での意見交換・所蔵資料調査 / ドイツ連邦外務省外交史料館（ベルリン）での意見交換・所蔵資料調査 / ベルリン国立図書館（ベルリン）での意見交換

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

③ 機関間連携

大英図書館との共同インターネット特別展

「描かれた日清戦争 錦絵・年画と公文書」

“The Sino-Japanese War of 1894-1895 : as seen in prints and archives”

- ・ 大英図書館所蔵の日清戦争版画類コレクション全235点（日清両国の作品を含む）と、アジア歴史資料センターの公開する日清戦争関係公文書とをあわせて紹介するインターネット展示
- ・ 2014年5月27日公開、以降順次更新（内容追加）を行い、2016年9月1日に最終更新完了
- ・ センターにとって、外国の機関との連携事業としても、他機関と共同でのコンテンツ制作としても、初の試み

EAJRSにおける両機関職員の交流が基礎となった

4 海外に向けた情報発信

(2) 海外での広報活動

③ 機関間連携

大英図書館の考え方

- ・ 版画類というビジュアル資料を歴史資料として世の中に示すためには、歴史的な公文書をデジタル公開するという事業内容や、これまでのウェブサイト制作・公開の実績を見れば、アジア歴史資料センターがパートナーとして最適である

アジア歴史資料センターの考え方

- ・ 共同企画を通じて、大英図書館日本資料部門が所蔵する豊富な日本語文献の利用者をはじめ、日本やアジア諸国に関心を寄せる世界中からの同館利用者に対し、新たにセンターの存在をアピールする機会を得たい

異なる機関が資源や知見を持ち寄ることによる新しい可能性へ

5 おわりに

●センターの利用者は…

国内の利用者

中心的な利用者は、研究者や学生等の専門性の高い人々であると認識

体験者等による、戦時の出来事等についての記録に関する質問を受けることも多い

歴史学習・教育の現場で、教員や生徒たちがセンターのサービスを利用しているという声

海外の利用者

海外広報時の人々の反応や、海外からの問い合わせの頻度から、認知度の向上が感じられる

中国、台湾、韓国、米国や一部の欧米諸国の研究者や学生による利用が増えてきているか？

5 おわりに

- HP上の窓口寄せられる問い合わせの状況（2011年10月～2016年5月）

日本人（日本国内在住の日本国籍所持者）：736件

外国人（日本国内に留学中の外国人を含む）：334件

▶ アジア諸国：94件（28%）、欧米主要国：123件（36%）

▶ 韓国（29）、中国（20）、台湾（17）、シンガポール（8）

▶ アメリカ（65）、オーストラリア（19）、イギリス（17）

▶ 関連資料の検索方法についての問い合わせが多い（戦闘詳報・戦跡・兵器に関するものなど）

▶ 専門家やいわゆるマニアからの問い合わせが多い

5 おわりに

- 閣議決定「アジア歴史資料整備事業の推進について」では、センターの事業目的として…

我が国とアジア近隣諸国等との間の歴史に関し、国が保管する資料について国民一般及び関係諸国民の利用を容易にし、併せて、これら諸国との相互理解の促進に資すること



日本国内の人々のみでなく、国外の人々による利用にも対応できるようなサービスの提供に取り組む必要性を認識

可能な限り日本語と同様の情報量及び利便性を保ちつつ多言語での情報提供を行うことが理想と考えられる

ご清聴ありがとうございました

Thank you for your attention.

国立公文書館 アジア歴史資料センター

研究員 平野 宗明

Japan Center for Asian Historical Records (JACAR), National Archives of Japan

Researcher, **Muneaki Hirano**

